



【学校教育目標】「人間性豊かな心もち 実践力のある生徒の育成」
— 気付き、生かす —

若松中だより

千葉市立若松中学校
校報
第 38 号
令和 2年11月24日

感染症から生まれる差別・偏見を どうなくしていくかを考える授業をおこないました

校長 古市 直彦

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校を含めた日常生活にも、一部に制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いております。今までとは違う生活形式に変化していく中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となっているのも事実です。

学校でも、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきています。

そこで今回、「特別教科 道徳」の学習の一環として、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの”感染症”」の考え方をもとに、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見について考える授業を実施しました。概要を紹介させていただきます。



3つの“感染症”とは？

- ① “病気”そのものの感染症
- ② “不安”という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見”という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。



Check

負のスパイラルを断ち切るためにできること

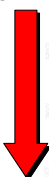
- ① ウイルスの感染をひろげないために…
まずは 手洗い・咳エチケットの徹底、3密を避け、自分自身の感染症予防を徹底しておこなう。
- ② 不安にふりまわされないために…
情報源のはっきりしないうわさ話はしない・広げないこと
- ③ 差別や偏見をひろげないために…
言い出しにくい空気をつくらないこと



感染症から差別や偏見が生まれる理由

人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。

感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。



目では見えないウイルスに対する不安やおそれ

感染症にかかった人、その家族 地域や学校 を“敵”とみなして 嫌悪の対象とする

嫌悪の対象を差別して遠ざけることでつかの間の安心感を得る



新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。たたかうべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを取りこえましょう。

授業後の生徒の声…「自分のできることは…！」

※道徳授業後の感想なので、今回は匿名で紹介します。

- もし友達がコロナになったら驚くだろう。でも、心の声は出さず、その友達がいない所で陰口を言っている人がいたら止め、どんな人にも、温かい雰囲気を作っていきたい。(3年生男子)
- まず、自分自身、手洗いや咳エチケット等の感染症対策を徹底して行き、かからないようにする。なってしまった人には、安心させるような声をかけてあげれば、差別や偏見はなくなると思う。(3年生女子)
- みんなが協力をして一人一人ができる感染症対策をし、その話が本当かどうかをしっかりと確かめ、言っているのかを考える。相手の立場になってよく考えて発言し、行動する。今までどおりではなく、コロナウイルスに対する生活をして、他人に迷惑になることはしない。SNSなどインターネットの書き込みにも注意したい。(3年男子)
- デマを流さない。自分が言われて嫌なことは言わない。コロナウイルスについて知る。自分もかかるかもしれないという危機感をもつ。(2年女子)
- 手洗いなどの予防を全員が行い、うわさ話を広げたり悪口を言ったりせず、体調が悪かったときに言いやすい空気を普段から作る。また、感染した人が帰ってきたときは、温かく迎えたい。(2年女子)
- まず、自分の体調管理・感染症対策から始める。コロナになってしまった人に対してもマイナスな言葉をかけずに、プラスな気持ちで接することが、自分にも相手にも良いことだと思う。(1年女子)
- コロナは身近にひそんでいることを理解し、かかった人がいても陰口を言うのではなく、

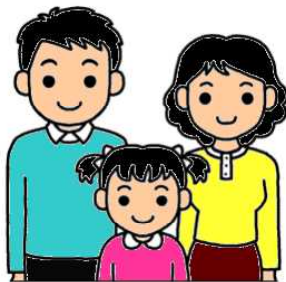


その人を心配して、その人が戻ってきたら、みんなで優しく「おかえり」と言えるようにしたい。(1年女子)

- 人の気持ちを考えて行動し、確信のない情報をSNS等で拡散しないようにする。(1年女子)



ご家庭でもご協力をお願いします。



新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「東京から来ないでほしい」「あそこの人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」など何気なく発した言葉を子どもたちは聞いています。

この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。学校でも、今回の授業をはじめ継続して指導していきませんが、ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、ご協力よろしく願いいたします。

授業でお子様が見た動画をこちらで限定公開しています。ぜひ、おうちのかたもご覧になっていただき、感染症に関わる社会問題についてご家庭でも、話し合ってみてください。

文科省公式

